

【概要】

本日（4月17日）午前10時40分頃、雑固体廃棄物焼却設備建屋内で運転中の雑固体廃棄物焼却設備A系において、二次燃焼器と排ガス冷却器の間にあるエキスパンション（伸縮継ぎ手）の下部に水の滴下跡があることを協力企業作業員が発見しました。

発見時の滴下跡の範囲は、約5cm×約5cm×深さ約1mmで、水は滴下場所に溜まっており、滴下の継続はありません。

滴下した水をスミア測定した結果、バックグラウンドと同等のため、汚染した水ではないと判断しています（汚染バックグラウンド40cpm、線量率バックグラウンド0.09 μ Sv/h）。現場を確認した結果、二次燃焼器と排ガス冷却器の間にあるエキスパンション付近（滴下跡の上部）に水滴が付着していたが、水の出所は不明であることから、今後、焼却運転を継続しながら、当該箇所のパトロールによる監視を継続していく。

なお、雑固体廃棄物焼却設備建屋排気筒ガスモニタ・ダストモニタ指示値や、モニタリングポスト指示値、発電所敷地境界・構内ダストモニタ指示値、構内線量表示器指示値に有意な変動はなく、環境への影響はないと考えております。

【時系列】

4月17日

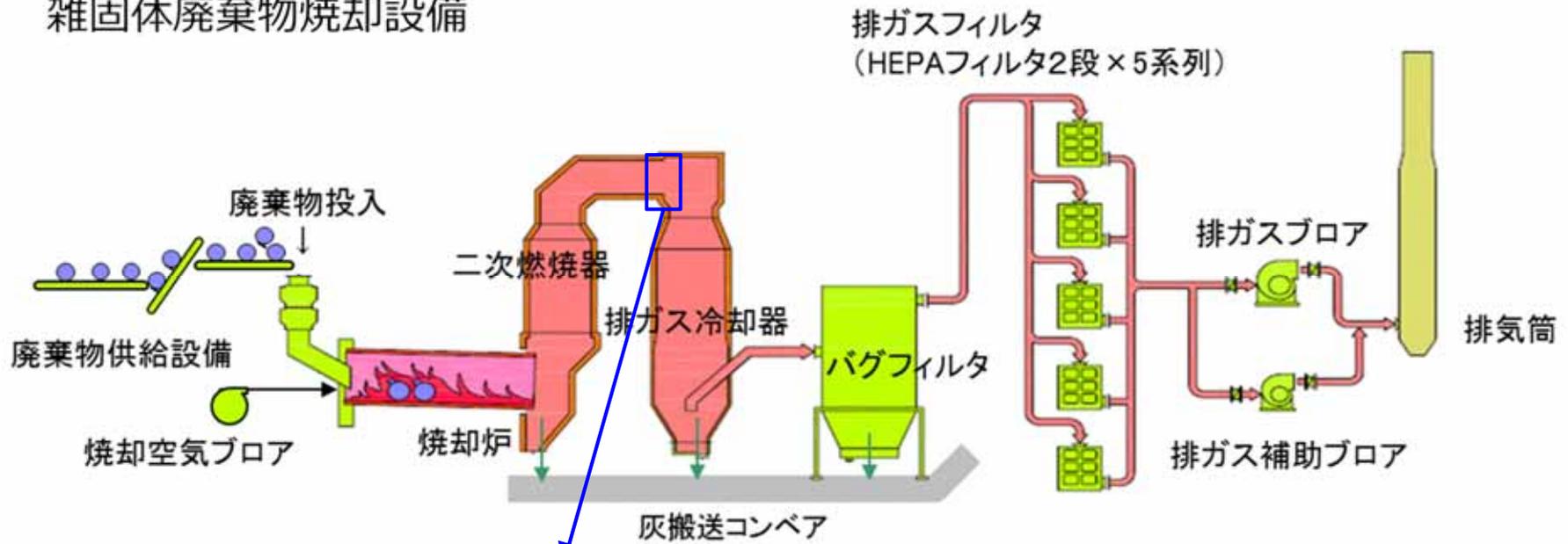
午前10時40分頃 協力企業委託員が水の滴下跡を発見

午前11時12分頃 廃棄物投入停止

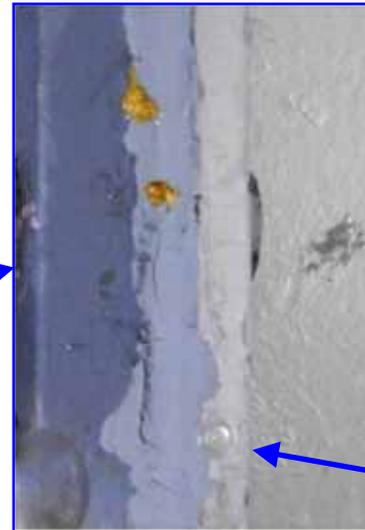
午後 0時25分頃 滴下跡の水をスミアにて採取し、汚染および線量率を測定した結果、汚染はバックグラウンド40cpmと同等、線量率はバックグラウンド0.09 μ Sv/hと同等で有り、汚染した水でないことを確認

【参考】現場確認結果（水滴の付着を確認）

雑固体廃棄物焼却設備



拡大



水滴を確認